


観点・小問ごとの分析	対策の視点
<p>に差がみられる。 誤答は、 大あわてに   と、大あわてした結果どうしたかを考えてしまい、次に続く「とび出していく」との関係を考えないで答えたと思われる。</p>	<p>言葉の使い方ができるようにする必要があると思われる。</p>
<p>四、文を続けて文章をつくる 1.文を並べ替えて文章を構成する問題であるが、正答率は32%と低く、まとまった誤答の傾向はみられない。 2.ある一文に続く文を選ぶ問題であるが、正答率は75%と高い。</p>	<p>。書き出しの文と、一つ一つの文の意味から、全体でどんなことを言おうとしているかを見通して、順序を考えることが大切であろう。</p>
<p>観点⑥（文・文章を書く）について 観点全体の正答率は50%で、領域ごとの比較では最下位であり、小問ごとでは、「指示語・接続語」、「文の構成」、「文章構成」のそれぞれに、正答率40%以下の問題が一問ずつあることに注目する必要がある。 文・文章を書くために理解させるべき基本的なこと、その理解したことを書く場面で適用させることなど、書く活動を通して指導していきようにしたい。</p>	

◎ 第4学年国語についてのまとめ

- 。 「読むこと」「書くこと」の正答率では、「読むこと」の方がやや上まわっている。平均正答率59%を下まわったのは、⑤、文・文章を読む（54%）、⑥、文・文章を書く（50%）の二つの観点であった。
- 。 ①、文字を読むでは、二、「漢字の音訓を読み分ける」、②、文字を書くでは、二、「送りがなを正しく書く」が、やや劣っている。「漢字の音訓」と「送りがな」は、関連させて指導することが有効と思われる。辞書利用による調べる学習を取り入れながら、ドリルを適切に位置づけ、漢字の学び方として身につけるようにしていきたい。
- 。 ③、語句を読むでは、一、「対語がわかる」、三、「語句の組み立てがわかる」（複合語の名詞+名詞）、④、語句を書くでは、一、「文中で語句を正しく使う」が劣っている。  
2の「文字」の場合と重複するが、調べる学習を重視していきたい。ある語句を学習するとき、